

アウトリーチ報告

担当者：沼田 栗実

● 目的：

HIV/エイズに関する問題について、イベントなどを通じ、「考える」「知る」きっかけを提供する。

● 経過：

- ① 2023年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症も5類相当になり、定例で参加していた北海道医療大学大学祭「九十九祭」に4年振りに参加することができ、ブース出展とステージ発表ができた。また、さっぽろレインボープライドにも参加でき、ブース出展とステージPRができた。またどちらも、新しいスタッフが参加することができた。
- ② ブース出展では、オーガニックハードローション、Findom（指用のコンドーム）を企業様よりご提供いただき、配布した。また、トリップスキン（オーラルセックス用コンドーム）も購入し、ブースで配布した。コンドームもサイズ別、素材別など、種類があることを情報発信し、自分にあったコンドームや方法を考えるきっかけづくりの時間を持てた。
- ③ イベントでのブース出展だけではなく、ラジオを通じて、HIV/エイズについての正しい知識など情報を提供・発信する事ができた。
- ④ さぽーとほっと基金パンフレットラック配架の他、Jazz ライブの受付にて広報資材を配布し、情報を提供・発信する事ができた。
- ⑤ 世界エイズデーに合わせて、Lプラザ内にエイズデーポスターの掲示を依頼し、協力いただけた。
- ⑥ 札幌市主催「ゲイ・バイ男性向け 即日 HIV 検査」の広報と相談員派遣を行うことができた。
- ⑦ 2023年度も引き続き、厚労省の研究班 MSM ALL JAPAN の取り組みに参加でき、（一社）にじいろほっかいどうと共催で、イベント「コンビネーション予防と PrEP」と「ともだちづくり×HIV/AIDS UPDATE！」の2つ企画・運営することができた。また、GAY NIGHT にてコンドームとサークルさっぽろ広報カードの配布ができた。
- ⑧ 世界エイズデー札幌実行委員会主催の企画に参加することができた。
- ⑨ 助成金事業の一環で、サイズ別のオリジナルコンドームを制作できた。
- ⑩ 世界エイズデー札幌実行委員会、（一社）にじいろほっかいどう、WAVE さっぽろ、さっぽろレインボープライド実行委員会、Qwe're、にじいろスマイル等、他団体と共に活動できた。

● 結果・効果：実施イベント等

- ① イベントについては以下の通り、参加・協力した。

日付	参加イベント・参加スタッフ人数等
6月17日 18日	北海道医療大学大学祭「九十九祭」 ブース出展/ステージ発表 スタッフ参加 5名
9月2日	Knock on the Rainbow@STV ラジオ スタッフ参加 1名 LGBTのためのエイズ検査会の告知とHIVについて
9月12日	にじいろスマイルラジオ@三角山放送局 スタッフ参加 1名 イベント告知とHIVの予防や検査についてのおはなし。
9月15日	さっぽろレインボープライド関連イベント「コンビネーション予防と PrEP」 （一社）にじいろほっかいどうと共催 スタッフ参加 3名

9月16日 17日	さっぽろレインボープライド ブース出展/ステージPR スタッフ参加 3名(当日まで準備も含む)
10月1日	札幌市LGBTのためのエイズ検査会協力(広報・相談員派遣) スタッフ2名(相談員1名 準備手伝い1名)
11月21日	高橋愛紀が贈るSOGI-Mamii's ハピネス♥Umbrella☂@FMドラマシティ スタッフ参加 1名 世界エイズデーについてのお話。
11月28日 12月5日	にじいろスマイルラジオ@三角山放送局 スタッフ参加1名 世界エイズデーについてのお話
12月1日	世界エイズデー札幌実行委員会企画への協力 レッドリボンスタディーカードの時計台前配布 協力 スタッフ参加1名
1月13日	ともだちづくり×HIV AIDS UPDATE! @中央区民センター -社)にじいろほっかいどうと共催 スタッフ参加 2名

- ② その他、イベント参加・ラジオでの発信というアウトリーチだけではなく、さっぽろレインボープライドでは公式HPにバナー広告を掲載することで、情報発信することができた。
また、イベント時には、広報Tシャツを着用し、ブース対応等を行うことで、情報発信することができた。
また、SAPPORO GAY NIGHTにてコンドームと検査情報(サークルさっぽろ広報カード)の配布でき、コンビネーション予防について発信できた。
そして、Jazzライブの受付にて広報資材を配布することで、HIVに興味がない方に対する啓発につながった。
- ③ 厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の北海道での取り組みでは、「コンビネーション予防とPrEP」「ともだちづくり×HIV AIDS UPDATE!」の二つのイベントを(一社)にじいろほっかいどうと共催で開催することができた。ターゲットを絞った啓発につながった。
- ④ 2022年度bdaオーガニックの助成を受け、市内のエイズNGOのWAVEさっぽろにも協力いただきながら、サイズ別オリジナルコンドームを作成できた。これは、北海道で初めての取り組みとなっており、今後、啓発資材も作成し、一緒に配布していく。
- ⑤ 2023年度全体を通して、事務局以外のスタッフやヘルプスタッフと一緒に活動ができた。

● 課題：

2023年度は、新型コロナウイルス感染症も5類相当になり、例年ブース出展してきたイベントも復活し、北海道医療大学大学祭「九十九祭」と、「さっぽろレインボープライド」のブース出展ができた。

例年、世界エイズデーイベントの広報としてラジオ出演し、イベントの広報だけではなく、HIVの情報を発信してきたが、2022年度に続き2023年度においても、12月1日にエイズデーに限らず、9月にも情報発信ができ、年間通じて、情報を発信していくことができた。ラジオ出演を調整し、分かりやすく伝えてくれたスタッフに、この場を借りて感謝いたします。今後もラジオ等のメディア配信は引き続き行い、また、オンライン配信(SNSやYoutube等)等、新しい形でのアウトリーチ活動を検討していく必要がある。

その他、Jazzライブでの資料配布や世界エイズデーに合わせポスター掲示を呼び掛けなど、広く市民向けに啓発活動ができたと考えている。今後は、資料配布については、より手に取ってもらえるよう、ポスター掲示については協力施設を増やせるよう、活動していく課題がある。

2023 年度も引き続き、一社) にじいろほっかいどうと協力でき、研究班の事業にも取り組めた。札幌でも PrEP 診療するクリニックが出てきたが、PrEP は医師の診療の元を処方するのが望ましい医療行為であり、正しく PrEP が普及して欲しいこと、コンドームをしない性行為の推奨とならないよう、コンビネーション予防を呼び掛けていくことを目的に今後 3 年間、引き続き活動していく。

この事業は、一部業務委託として、研究班からスタッフ対し謝礼金をいただいている。前年度に引き続き、研究班の事業に協力いただいたスタッフのみに、交通費以外に謝礼金の一部から手当をお支払いしているので、平等性に欠けないよう、手当基準を見直し、安定的に手当を支払えるようにしていくことが課題であると考え。引き続き、どのように資金を捻出していくか、アウトリーチ担当と事務局を中心に検討していきたい。

コロナも落ち着き、アウトリーチ活動も増えてくるので、HIV/AIDS について基礎的な知識だけでなく、最新情報を含め HIV/AIDS について理解を深められるよう、今後も色々な形で情報発信をしていきたい。